

## 東日本大震災NGO情報交換会

### 第9回

- ・日時：2011年5月16日(月)15:00~17:00
- ・場所：早稲田奉仕園6階 スカイラウンジ
- ・出席者：出席者リスト参照

### 議事録

#### 1 JANICからの情報提供

JANIC 田島：

##### 1.1 岩手救援状況アップデート

- ・JANICは遠野まごころネットの構成員の一団体として、正式に入ることになった。(駐在員：住田)まごころネットは、民間・NGO・NPO・社会福祉協議会(社協)が共同で災害ボランティアセンター(DVC)を運営しているメカニズム。一町三市(大槌・大船渡・釜石・陸前高田)の後方支援基地を実施。詳細や組織表は別添を参照のこと。(別添1)
- ・ゴールデンウィーク(GW)前後の変化について、一般ボランティアは場所により半分から四分の一に減っており、夏休み頃までこの傾向が続くのではないかと。一方で、がれきの量は減ったが、泥かきやがれき撤去のニーズはまだ残っている。
- ・同時並行して、仮設住宅(仮設)への移転の問題や仮設以降の復興の問題が、援助団体の間でも中心的な問題になりつつある。岩手県の方が宮城県より進展は遅い模様。岩手では三陸海岸の少ない平地が津波で破壊され、仮設用地の確保が難しい。例えば、大槌町ではやっと一時的な用地が一部見つかった状態。遠野では、後背地に人を収容するというアイデアも議論されている。
- ・災害救援法二か月延期により、災害対策本部は7月10日まで、DVCは6月末を一つの区切りとして考えている様子。今後、復興・復旧に関する恒久的な組織作りを目指す動きがある。

##### 1.2 ニーズ変化

- ・現在は過渡期、めまぐるしく変わるニーズに対応するスピード感が重要。
- ・物的ニーズは終息しつつあり、精神面や生活の質等、生活再建に関する問題が中心になっている。これに伴い、支援団体も対応していくことが必要。
- ・大船渡で耳にした情報によると、子供を持つ家庭・要介護者は、避難所には居ない。(子供を対象にした支援プログラムがあまりうまく運んでいない理由はこの辺にあるのかもしれない。)その際、コミュニティーも分断されている。従って、これら脆弱者やその家族が戻って来られるような地域づくりが復興期に必要。

##### 1.3 個別課題

- ・ボランティア減少への懸念がある一方、その分地元の雇用を促進すべきという意見もある。大船渡の DVC では被災者を雇用した。150 人の被災者を雇ってがれき撤去を行う役所も。外部者が来て働く際に、有償・無償があいまいでまずいという懸念も聞く。

- ・活動資金の偏在。潤沢な団体がある一方、全く不足しているところがある。

- ・現場に受け皿となれる団体が多くない。地元にもともと NPO が多くない中、(外部の NPO 等が行ってきた)事業/活動を引き継ぐため、どう仕組みを作るのか、キャパシティビルディングをしていくのかという問題がある。

- ・現地の中核人材不足により、(NGO/NPO の本部スタッフが現地に入って活動しなければならないことから)団体の本来の業務を圧迫している。

- ・ハローワークを通じて現地の人を雇用しようとした NGO があるが、応募がない(例:岩手・宮城でのドライバーの募集)。原因として、失業手当以上の給与でないとメリットがないこと(震災関係の失業保険では、失職ではなく休職でも手当が支給される)、また、日雇い労働をすることで次の生活再建等に支障が出るため、求人に対するインセンティブが低い、等があげられる。

一方で、手元に現金がない被災者が多い。仮設に移ると基本的に自活となり現金が必要となってくるため、雇用のニーズが出てくる可能性がある。

#### 1.4 活動物資貸与状況について

JANIC 藤岡:

- ・Softbank の携帯:残り 10 台。

- ・NTT PC コミュニケーションが、WiFi ルータを利用したモバイルインターネット環境及びソーラー式充電器 100 セットを無償提供している。あくまで JANIC 経由ではなく情報共有であり、希望者は先方へ直接連絡を。(詳細:別添 2 参照)

- ・第 8 回で連絡した、企業からの PC 貸与については未定。五月末になる模様。確定次第連絡する。

## 2 各参加団体・組織からの活動紹介、情報提供

### 2.1 グッドネバース・ジャパン(芳賀)

現在岩手県北上に事務所を構え、活動は大槌町・釜石市を中心に展開。ただ距離の関係で、来週あたりに、仮の事務所を釜石市に設置予定。

現地ニーズは、当初は物資提供等が主だったが、最近は気分が高揚するようなイベントを求められてきている。現地中学校で計画中の祭りにお笑い芸人を呼べないかとい相談もあり、協賛や主催という形でイベントに携わっていく意向。その際企業 CSR と連携を進めており、(株)旭硝子や(株)ANA と詳細を相談した結果、物資等の協力を得られる予定。

### 2.2 日本国際民間協力会(nicco)(不破)

診療所とモバイル・クリニックを実施していたが、4月末で終了。

その際に活動していたチームで、今後は心のケアに移行。ただ、心のケアや心理社会的ケアは、地元では余り馴染みがなく、リラクゼーションのイベントから入り、学校等に定期的に入って行く予定。

並行し、炊き出し・がれき撤去も4月下旬から開始。右に際し、Youth for 3.11（学生団体）やその他学生ボランティア団体の学生ボランティアを派遣、現地人材の雇用、東京や関西ベースの企業に所属するプロフェッショナルなボランティア人材の派遣をしている。今後は気候の関係で虫が湧くことも予想されるため、専門家の意見を聞きながら右の対処を検討。また長期的には農業を視野に入れて活動していく予定。

#### 2.3 庭野平和財団（野口）

こちらの情報交換会で聞いた情報を基に、助成財団センターと仏教 NGO ネットワークへ状況変化を報告している。

#### 2.4 ホープワールドワイド・ジャパン（竹本）

宮城県東松島市・石巻市の避難所及び在宅避難者への支援を実施。避難所を回りながら日々変わるニーズを調査し、多様なニーズに応えている（例：物資救援・理容師の派遣）。

また被災地障害者センター宮城と連携し、障害者のケアを実施。先週は仙台市の避難所にいる障害者の家族が難しい生活を送っているということで、四日間程そのサポートを実施。右の被災地障害者センター宮城は県内全土をカバーしているため、当方の活動エリアも北上していく模様。（拠点は仙台。）

また5月15日（日）に200名を集め、東京でボランティア講習会を開催。6月1日より、講習を受けたボランティアを派遣していく予定。

#### 2.5 JHP・学校をつくる会（田中）

3月19日より宮城県南三陸町にボランティアを派遣。現在第11次隊まで派遣。人数は通算約60名。5月15日には代表の小山内美江子が現地入り。

運営内容は、受付・マッチング・地域ニーズ把握が主だったが、最近では泥出し・思い出探し隊（写真の洗浄）を重点的に実施しており、付随する物資提供を行っている。今後に関しては、8月以降のボランティア増員も検討中。

#### 2.6 (株)博報堂（中野）

会社では、復興期に向けて企業には何ができるかという相談が出てきている。

個人で関わっているRQ市民災害センター（別添3参照）に関しては、GW中は300人規模のボランティアが入ったが、急速に減少。一方、五月第二週目に二回程説明会を東京で説明会を開いたところ、各回200人程度が集まった。支援の熱はあるが、便宜的な理由（例：交通手段）で現地に入れなかったことが多いため、彼らが入りやすいような配慮をしていきたい。

## 2.7 チャイルドファンド・ジャパン（磯貝）

大船渡で運搬・ボランティアサービスを実施。大船渡で 40 か所のセンターをプロジェクト関係者が回り、ニーズアセスメントやアドバイスをしている。

また心のケアという面で、行方不明者の関係者ケアも進めている。

## 2.8 JGC 通訳ボランティア（大崎）

3月17日に発足。

先週はヨルダン隊への支援終了。現在はタイの医療団をサポート中。

今後緊急支援から恒久的支援への移行していく中で、海外団体と資金面のやり取りに際する Documentation や Situation Report 翻訳などで各団体に協力していきたい。

## 2.9 AmeriCare (Allen / 通訳：JGC 通訳ボランティアより渡辺)

今まで救援活動に携わっていた Michel Jackson がアメリカへ帰国。代わりに 6 月初めからスタッフ二名（日本人一名、コロンビア大学で日本研究をしていたアメリカ人一名）を日本に派遣、二週間駐在予定。その間の引き継ぎを Allen (AmeriCare ディレクター、アジア・オセアニア地域担当) が担当。

今後 1~2 年滞在できるように日本に事務所を構える可能性も念頭に入れ、準備を進めている。

これまでは小さいグラントが多かったが、今後は大きなプロジェクトを進め、特に日本の NGO に大規模な支援金を出したい。

また、歯に関わる施設（モジュールハウス）を設置予定（機器等の設備・薬・建屋を含めた形で）。二週間以内に詳細を決めて開始する予定。

## 2.10 ボンド&ジャスティス（市村）

震災後に発足した市民団体で、NPO 法人化の申請中。全国の音楽関係者・飲食関係者等から託された救援物資を福島・宮城へ配布。

最近では主な活動を炊き出しにシフトし、現在までに 9500 食配給。

代表が福島南相馬出身であり、同県の各保育園などにガイガーカウンターや浄水器を設置できないか検討中。

## 2.11 DRI; Direct Relief International (Carl / 通訳：千葉)

アメリカで資金を集めるに当たり、具体的な活動内容というよりも数値として結果を知りたい。同様に、各地域での金額の不足等があればいくら必要なのか、具体的な数値で知りたい。可能なら次回ミーティングまでに教えてほしい。

## 2.12 ブリッジエーシア・ジャパン（大津）

引き続き、大船渡で 3.11 三陸気仙復興委員会と連携し栄養バランスを考えた惣菜の調理と配給を行っている。また 5 月 15 日（日）からスタッフ 2 名が現地入り。

## 2.13 ワールドビジョン・ジャパン (WVJ) (蘇畑)

5月10日（水）からの南三陸町での学校再開に際し、南三陸町すべての小中学校の子供たちへ学用品を支援。校舎が全壊した南三陸町旧戸倉小中学校に関しては、現在児童が登米市に避難しているため、登米市・南三陸町間のスクールバスを一日三回程度運行。

また岩手県・宮城県仮設住宅入居者へ、生活支援物資の配布を、先週に引き続き毎日実施。トータルで1万5千百。搬入時には、現地社協を通して招集された現地ボランティアと連携し、スムーズに進んでいる。

今後、気仙沼にあるKWeb（避難所）でコミュニティーキッチン（炊き出し）の支援を実施予定。WVJでは仮設キッチンと機材を提供、市の方で国からの予算を活用できるということで、地元の業者への発注、調理・配給。8月末（仮設住宅への入居が済んだ段階で）までを目処に実施予定。

南三陸町ではコミュニティーごとに、第3回目の二次避難が始まっている。南三陸町内の大きな避難拠点5か所のうち4か所でコミュニティーキッチンの支援をする予定。そのうち静川高校は元来の設備があるということで、仮設キッチンと機材の提供を予定。町役場が地元の人材を一か所につき5人雇用するということで、被雇用者に調理・配食をしてもらう予定。現在仮設キッチンの図面を引いている段階で、6月スタート予定。

#### 2.14 IMC; International Medical Corps（田中）

今週末（5月第3週末）東北大学の臨床心理士と共に心理社会サポートに関する参加型のワークショップを実施予定。主な対象は、先生方・スクールカウンセラー等（被災した子供たち等に接する機会がある人）を中心に定員80名。交通費・昼食もIMCで負担。

また、ボランティア向けに社会心理サポート関連のオリエンテーションやトレーニングなども現在準備中。

#### 2.15 東京英語いのちの電話（大滝）

5月14・15日に、6回目サイコロジカル・ファースト・エイドの研修を実施。

今後の予定としては、INCと連携しワークショップへ同伴。また企業・学校向けの短いワークショップの予定も複数あり。来月には、臨床心理学会の先生方向けのISCガイドラインについてのワークショップも予定。

#### 2.16 ピースポート（合田）

宮城県石巻市中心にボランティアによる活動、及び社協を含む団体のコーディネートを実施。新しく女川で活動を開始し、主に仮設住宅への物資提供をボランティアが直接行っている。

また、外から来るボランティアや炊き出し自体が減ったことで、一回に作る量が増え、最大5000食を一度当たり提供する形になる模様。そこでセントラルキッチンというプロジェクトを開始。石巻市で最大級の居酒屋を借りて泥を出し、地

元の方を含めた人材を雇用。5000食を作り、約20か所の在宅被災者へ提供開始予定。今月中にすべてスタート。

またこれまでは東京のみでの説明会だったがボランティア確保のため神戸・名古屋で説明会を実施し、今週末（5月第3週末）も福岡・大阪・名古屋で説明会を実施予定だが、各回から10～20名ずつ程度のボランティア確保になる模様。企業CSRから社員がボランティアに行きたいという話が出ており、活用したい。泥出しはともかく、炊き出しは途中で止めてしまうと一気に食事が出せなくなってしまうため、常に150人はボランティアを確保できるように工夫したい。また社協の運営サポートということで、5月16日（月）発売のAERAに団体の活動が取り上げられている。

#### 2.17 ヒューマンライツ ナウ（浅井）

国際人権団体。主にアドボカシーを中心に活動。避難状況にある方の居住権に関する提言書（<http://hrn.or.jp/activity/topic/post-101/>）及び女性を中心とした少数者配慮に関する提言書（<http://hrn.or.jp/activity/topic/post-100/>）を団体Webにアップしている。

今後、食事（栄養の偏り、冷たいものしか食べられていない等）に関する提言をまとめて発表したいため、食事に関する課題等の情報を提供してほしい。

#### 2.18 JICA（内藤）

福島県二本松にて原発避難者の避難所として、JICAの協力隊の訓練センターを活用。

岩手県遠野まごころネットを中心にした支援に関しては、協力隊関係者・職員ボランティアを中心にサポートしていたが、今週から常駐職員の配置と並行し新入職員でローテーションを組んで派遣し、切れ目なくスタッフを派遣していく予定。現地のニーズに応じて臨機応変に対応。

仙台のJPF拠点・NPOセンター・JANICに人材を出し、サポートしていく。また今後の中長期プランを検討中。

#### 2.19 オイスカ（池田）

引き続き茨城県北部・宮城県内での物資支援。

また5月15日に、フィリピン大使館とフィリピン人の方へ支援をしている団体と連携し、南三陸町・気仙沼・陸前高田・大船渡に住むフィリピン人の被災者への物資支援と今後の生活相談を実施。南三陸町の災害対策本部長・DVC運営スタッフと意見交換も実施。

5月20（金）～22（日）に気仙沼市内で、地元の保育園、及びピースウィンズ・ジャパンのサイトを借り、子供たちへの心のケアに関する活動を実施予定。

### 3 質疑応答・意見交換

・ボンド&ジャスティス：緊急車両用の高速道路無償使用が5月いっぱい終わると聞いているが、それ以降はどうなるのか。

JANIC 藤岡：表向き政府等から出ている情報によると、県（県社協・県DVC）と直接協力関係にあるところに関しては、県で出してもらえるということを知っている。

自治体ごとに違う可能性がある。要確認。

・ピースポート：ボランティアが極端に減っている中、各団体はどうボランティア確保に取り組んでいるのか。ピースポートでは短期間の募集もかけるという点で工夫する予定だが。

nicco：Youth for 3.11 と提携しており、右団体を通してボランティアを募集している。その際、学生たちがTwitter等も活用しながら新旧のフィードバックを効果的に発信している。現地の人材を確保する方向はないのか。

合田：地元の方の発意で、道具を貸し出して炊き出しをやってもらっている所もある。ただ、週7日通しでやってもらうのは無理があるので、短期のボランティアを入れ、休みを確保できるようにしたい。

JANIC 一之瀬：宮城県でもDVC自体が同様の問題を抱えている。GWに人が入ってきたからこそ見えてきた「できること」がある。名取市のDVCに関しては、以前ボランティアで来た人にリピーターとして声をかけており、特に企業等の団体参加者は、団体として再度ボランティアに来ないかと声をかけている。

JANIC 田島：地域によっては、地元の人材で回していく動きが増えてきている。遠野では現地の壮年～中年層を動員するという考えも出ており、家族のケアがあって参加できないなら対策（託児所など）を作ろうという意見まである。また大船渡では被災直後から現地の人材で完結している。その場合には人材よりはむしろ、資金面で援助ができるシステム作りの方が良いのかもしれない。

グッドネバース・ジャパン：企業等、大きな組織へ声をかけるのも一つの手。企業では、有給を消化しながらボランティアに参加するため、ある程度（3～4週間）前もって呼びかける必要があるが、意識の高い社員は多い。また、例えばバス一台分程度の人数が一つの組織から集まると、その際バス一台分のボランティアの面倒を企業側で見てもらえる可能性もてくる。大企業などではグループ企業にまで一斉に声をかけてもらえる。企業職員とNGOとの定期的な連携がうまく回り始めれば、ボランティア供給の安定化も見込める。

JANIC 田島：NGOサイドからプロアクティブに呼びかけてみても良いかもしれない。

博報堂：オリンパスが100人規模で現地に社員を送っている（JTB経由）というのが、一つのRQと企業の連携実績。細部において話し合う必要はあるが、一旦組織として意思決定するとボランティア供給が安定する。

東京で話していても着地しないので、CSR 担当者に現地を見てもらうといい。

PB：企業からの短期間でのボランティアニーズなら 20～30 社から頂いているが、短期間なので毎日 150 人の確保は難しい。西で説明会を開いた反響は薄かったが、他地域で説明会に良い所はあるか。

nicco：青森や仙台など、東北や地元がいいかも知れない。

・JGC：恒久組織化や基金について

JANIC 田島：遠野まごころネットは NPO 法人化申請し、独立した法人組織として復興に長期的に関わっていく模様。石巻は石巻復興支援協議会が同様に法人化を目指しており、長期的に活動する様子。基金に関しても、ファンドを立ち上げて散らばっている資金をまとめるという意見も出ている。

・DRI：UPS 社が被災地への物資やその運搬を無償提供している。DRI も UPS とパートナーシップを組んでおり、UPS から支援のオファーが来ている。

・CFJ：「復興を見据えた」仮設住宅への対応とは、具体的にどういうイメージか。

JANIC 田島：遠野では、仮設住宅に抽選で人を入れることに対する懸念が出ている。阪神淡路大震災の際にコミュニティーが分断され、孤独死が問題になった。その教訓もあり、また今回は仮設生活が長引く恐れがあるため、入居時期からコミュニティーづくりをし、仮設の中にもコミュニティーがあるという状態を確保すべきだという意見もある。しかし、地元自治体には余り聞き入れられておらず、とにかく建てたら抽選して入居という動きが目につく。

博報堂：RQ でも焦点に上がっている。長期的な構想なしで、取りあえず建てて二年間存在するという一方で、逆に復興計画の障害になる可能性がある。一方、たとえば増淵小学校に避難している静川の中瀬地区では「皆で帰るのが悲願」で地区内の 55 世帯揃って入居できなければ仮設入居しないと主張している被災者もいる。

・CFJ：「地元リソース活用も制度的な壁があって進んでいない」という点に関して、働きかけはなされていないのか。

JANIC 田島：(制度的な壁について) 一つは、ハローワークを通じての地元の雇用創出があるが、国にある約 2500 億円分の基金が地元まで下りてきていない。義捐金の配布も進んでいない。このように国の支援や救援組織の足が遅い一方で、その間も支援ニーズは存在するという現状。もう一つは、被災者は早く働きたいだろうという思い込みでいくと、失業保険を受けている人は必ずしもそうでないかもしれない場合もある。制度的な壁があり実施に至っていないところを、NGO や民間がやることにも、意味があるのではないか。



WVJ：南三陸町や気仙沼の物資受け入れスタッフや子供たちの心のケアの現場スタッフ求人、避難所の掲示板や現地ハローワークを通して呼びかけているが、予想以上に人が集まらない。人伝で呼びかければ人材は集まるが、公募すると集まらない。

nicco：以前トラック運転手を募集した際も、人が集まり具合は高くなかった。

JANIC 山口：国際 NGO に対する壁（外部者であり、いずれ撤退するという点）があるのかもしれない。

団体の見せ方の問題（現地に団体名や内容が明確に伝わっていない）、雇用期間（もともと短期契約で働くことが少ない地元）の問題もあるのかもしれない。

JANIC 田島：雇用促進などに関しては、現地のニーズを皆さんで調べて頂き情報共有という協力体制をとれると、全体のインパクトとして望ましい。

・ボンド&ジャスティス：シェアハウスの概念を仮設住宅建設に際して応用できないか。

JANIC 山口：厚生労働省で、仮設住宅内への「憩いのスペース」設置は決まっている。支援センターとして、ケアマネジャーの常駐も試みられる予定。「新しい公共」でも提言中。

・JGC：JANIC はいつまでこの体制（震災支援）を続けるのか。

JANIC 山口：当初は半年の予定だが、あくまでもニーズベース。他の NGO 自体、本業との兼ね合いを見て被災地から撤退する時が来るので、それに拠る。

・ボンド&ジャスティス：福島には全く違った問題があり、住民が自ら放射性物質の数値測定ができ、それを公にする手段をサポートしたい。特に原発は世界規模の問題なので、海外団体からの援助が集まっているのなら、そうした方向に使うというのも手ではないか。

JANIC 田島：長期的な支援が一番必要なのが福島だということは把握しており、これから対応していきたいと思っている。

・JANIC 藤岡：生活再建・事業再建ハンドブック（5月12日発行）の案内。助け合いジャパンで検索可能。（<http://www.kantei.go.jp/saigai/handbook/>）

・JICA：本業へのネガティブな影響はどれほどのものなのか。本業（国際協力分野）での資金調達に支障が出ており、縮小せざるを得ないのではないかと懸念がある。

・JANIC 田島：各団体はどのくらいの期間、震災支援活動を続ける予定か。

ホープワールドワイド・ジャパン：3年。

グッドネバース・ジャパン：7月末まで。

JGC 通訳ボランティア：1年。

PB：今回震災対応の社団法人を作ったため、永続的に活動予定（国内外問わず震災対応していく）。またそのための人材ボランティアストックを作っていく。

WVJ：1年。その後、国内での支援事業として継続可能性あり。現地のNPOと組む可能性は現段階では不明。

・ JANIC 山口：大手NGOで、余った資金はどう使うのか。

WVJ：必要資金集まった段階で、資金募集停止。

JANIC 山口：スマトラで資金が「ばらまかれ」現地がスポイルされた、あるいは他の事業に流用してしまったということがあった。今回も同じような危険性がある中で、救援金として集まった資金をどう有意義に使うか。個人的には、地元のNPOや担い手を育てて（NGOはいずれ本業に戻るため）、そこに長期に渡って資金を使ってもらおうというのが一つの手ではないかと考えている。

WVJ：今後の復興のフェーズで何ができるかという点を、スタッフを現場に投入し、慎重にアセスメントしながら検討している。また福島県外（新潟県）に避難されている方への支援も考える中で、できれば現地NPOと組みたいと考えている（詳細：第8回情報交換会参照）

CFJ：プロジェクトにもよるが、最低二年活動予定。

・ JANIC 山口：海外団体側は、万一復興のための市民ファンドができれば、出資する意向はあるのだろうか。

AmeriCare：現段階不明。

DRI：基本的に寄付対象はプロジェクトベースの団体向けへの個別のサポートであり、直接団体を指定できないファンドに支援するという意向はない。ただ今後、支援の動きが緊急から社会的復興を焦点に移行することも理解している。

次回 東日本大震災 NGO 情報交換会第10回

日時：5月23日（月）15時～17時 場所：早稲田奉仕園6階 スカイラウンジ

## 第9回東日本大震災NGO情報交換会 出席者リスト

	団体名	出席者（敬称略）
1	Ameri Cares	Tammy Allen
2	DRI(Direct Relief International)	Carl
3	DRI(Direct Relief International)	千葉 洋平
4	JGC 通訳ボランティア	大崎
5	JGC 通訳ボランティア	渡辺
6	JHP・学校をつくる会	田中 宗一
7	インターナショナルメディカルコープ	田中
8	オイスカ	池田 浩二
9	グッドネバース・ジャパン	芳賀 朝子
10	独立法人 国際協力機構（JICA）	内藤 徹
11	チャイルドファンド・ジャパン	磯貝 さおり
12	東京英語いのちの電話（TELL）	Sarah
13	東京英語いのちのでんわ（TELL）	大滝 涼子
14	日本国際民間協力会	不破 麻理子
15	庭野平和財団	野口 陽一
16	(株)博報堂	中野 民夫
17	ピースボート UPA 国際協力プロジェクト	合田 茂広
18	ヒューマンライツ ナウ	浅井 美絵
19	ブリッジ エーシア ジャパン	大津 祐嗣
20	ホープワールドワイド ジャパン	竹本 雄大
21	ボンド&ジャスティス	市村
22	ワールドビジョン・ジャパン	蘇畑 光子
23	国際協力NGOセンター（JANIC）	山口、田島、藤岡、一之瀬、 中森、難波